

3 参考資料

(1) 本県における松くい虫被害対策等の経緯

平成 18 年度に深浦町で特別予防監視区域を設置し、特に日本海側の監視体制を強化してきたが、蓬田村で平成 22 年に 1 本、深浦町大間越地区で平成 23 年に 2 本、25 年に 3 本の被害が確認され、平成 27 年 7 月以降は深浦町広戸・追良瀬地区において継続的に被害が確認されている。

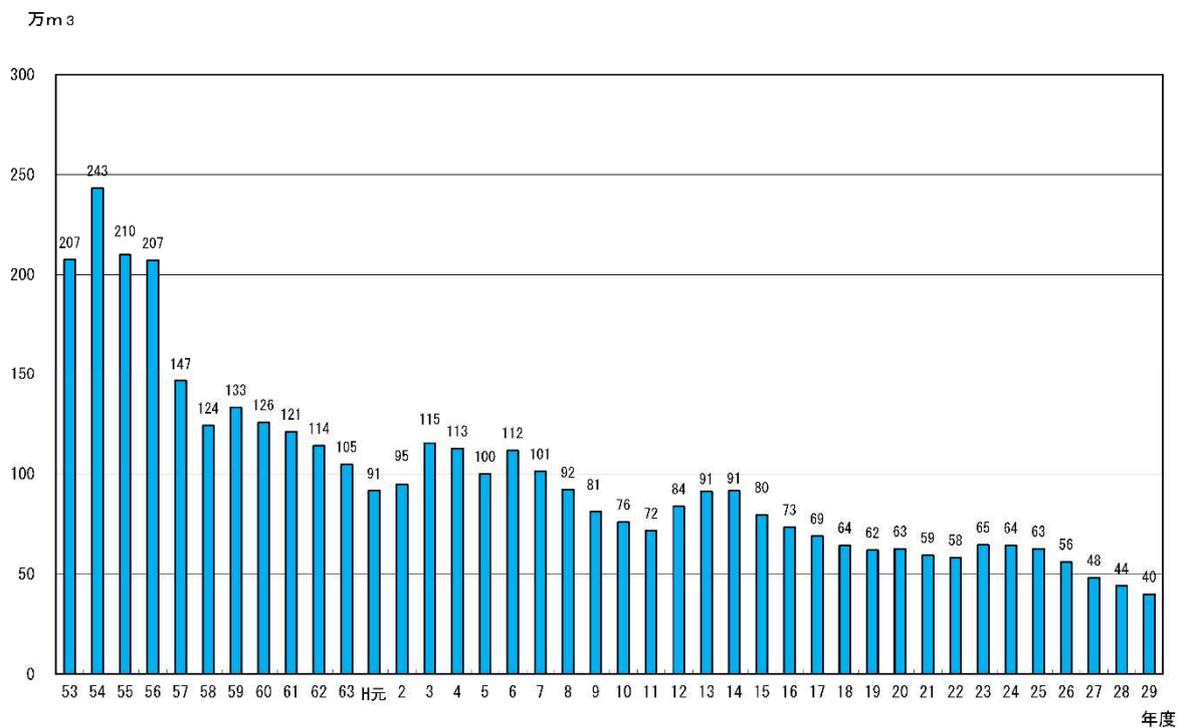
表 8 松くい虫被害対策等の経緯

年度・シーズン	経緯
昭和 55 年度～	・マツノマダラカミキリの生息調査を開始
昭和 61 年度～	・松くい虫予防監視員を設置
平成 7 年度～	・松くい虫被害対策推進連絡協議会を設置
平成 9 年度～	・繁殖・感染源となる枯損木等の除去
平成 13 年度～	・除伐・つる切りなど林内の環境改善
平成 15 年度～	・天敵となるキツツキ類の営巣箱の設置
平成 16 年度～	・被害材の移入防止のための松くい虫防除監視員を設置 ・県防災ヘリコプターによる上空探査を開始
平成 18 年度	・平成 18 年 7 月、秋田県八峰町において本県との県境から 250m のマツ林で被害が確認 ・深浦町に「特別予防監視区域」(防除帯) を設置
平成 19 年度～	・専門家による検討会、空中写真による異常木調査、松林現況調査等を開始
平成 20 年度	・9 月：東津軽郡外ヶ浜町平館漁港の整備工事において、県外から持ち込まれて植栽されたクロマツからマツノザイセンチュウを検出
平成 21 年度	・平成 22 年 1 月：東津軽郡蓬田村玉松台スポーツガーデン内の自生クロマツに被害発生(県内 1 例目：1 本)。 ・被害木を中心に「被害拡大防止重点監視区域」を設定。
平成 22 年度	・蓬田村「被害拡大防止重点監視区域」において、ヤニ打ち調査を実施し、枯損木等を焼却処分。 ・松くい虫予防監視員を松くい虫防除監視員に統合
平成 23 年度	・9 月：深浦町大間越地区で被害発生(2 例目：2 本)
平成 25 年度	・6 月：深浦町大間越地区で被害発生(3 例目：2 本) ・9 月：深浦町大間越地区で被害発生(4 例目：1 本) 「青森県松くい虫被害防除基本方針」及び、「青森県松くい虫被害防除マニュアル」を策定。
平成 27 年 (H27.7～H28.6)	・7 月以降：深浦町広戸・追良瀬地区で被害発生(5 例目) ・被害木 68 本
平成 28 年 (H28.7～H29.6)	・被害木 69 本(うち、2 本は国有林)
平成 29 年 (H29.7～H30.6)	・被害木 30 本(うち、1 本は国有林)
平成 30 年 (H30.7～H31.6)	・10 月：南部町小向地区で被害発生(6 例目：5 本)

(2) 全国の被害状況

松くい虫被害量は、昭和 54 年度の 243 万 m^3 をピークに概ね減少傾向にある。

過去 5 カ年の被害量の推移をみると、全国的には減少傾向にあるものの、東北地方では増加している県もある。



出典：「平成 29 年度森林病虫害被害量」について（平成 30 年 11 月 7 日林野庁プレスリリース資料）

図 7 全国の松くい虫被害量（被害材積）の推移

表9 都道府県別被害量（平成27～29年度）

（単位：千m³）

年度 区分	H25	H26	H27	H28	H29	対前年度比
北海道	—	—	—	—	—	—
青森県	0.0	—	0.0	0.1	0.0	32%
岩手県	45.2	39.0	35.3	32.5	29.9	92%
宮城県	21.3	20.1	19.9	16.0	17.5	110%
秋田県	16.4	15.7	17.7	17.9	11.5	64%
山形県	11.9	23.9	29.8	34.2	26.6	78%
福島県	32.7	33.0	31.2	30.7	30.4	99%
茨城県	7.3	4.7	5.2	4.3	5.4	126%
栃木県	10.9	9.8	9.4	9.3	7.4	80%
群馬県	7.2	7.2	7.5	7.7	6.3	81%
埼玉県	0.2	0.1	0.2	0.1	0.0	12%
千葉県	2.9	1.7	1.5	1.5	1.4	95%
東京都	0.0	0.0	0.5	0.1	0.0	46%
神奈川県	0.4	0.3	0.4	0.3	0.3	85%
新潟県	44.2	28.0	15.9	7.4	4.0	54%
富山県	1.4	1.5	1.3	0.9	0.5	57%
石川県	7.5	7.1	6.7	5.5	4.5	82%
福井県	7.8	6.5	4.6	3.6	2.4	65%
山梨県	10.2	8.5	7.1	6.5	5.3	82%
長野県	79.9	76.6	77.7	74.4	76.1	102%
岐阜県	2.2	1.3	1.9	0.7	0.4	57%
静岡県	10.7	8.2	6.5	6.4	6.7	105%
愛知県	4.1	2.7	1.6	1.2	0.9	79%
三重県	2.8	2.9	2.5	2.5	2.1	83%
滋賀県	2.3	2.1	1.6	1.2	0.9	74%
京都府	20.1	17.3	11.5	9.6	14.0	146%
大阪府	2.1	1.7	1.5	0.9	0.8	84%
兵庫県	9.5	7.0	5.4	3.8	2.8	73%
奈良県	4.0	1.2	0.8	0.6	0.6	94%
和歌山県	0.5	0.3	0.4	0.4	0.4	108%
鳥取県	19.8	14.7	11.6	4.6	6.8	146%
島根県	56.4	49.7	13.2	11.2	9.8	87%
岡山県	8.1	6.3	4.5	3.8	3.4	88%
広島県	16.5	15.7	15.7	14.9	12.5	84%
山口県	22.5	20.4	20.2	20.0	18.8	94%
徳島県	0.4	0.3	0.3	0.2	0.3	169%
香川県	19.4	15.5	12.9	12.5	6.2	50%
愛媛県	6.3	6.0	5.5	4.5	3.9	87%
高知県	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	116%
福岡県	15.6	9.7	9.0	7.2	5.5	76%
佐賀県	0.4	0.3	0.3	0.4	0.4	85%
長崎県	2.0	3.7	1.0	1.7	5.9	347%
熊本県	1.2	1.1	0.8	0.2	0.3	220%
大分県	0.8	0.4	0.5	0.3	0.2	70%
宮崎県	3.9	4.4	5.7	3.1	1.7	53%
鹿児島県	85.1	82.2	69.6	70.2	62.0	88%
沖縄県	2.3	2.0	5.1	4.5	2.3	52%
合計	626.7	560.7	481.4	440.1	399.3	91%

- 1 民有林については、都道府県からの報告による。
- 2 国有林（官行造林地を含む。）については、森林管理局からの報告による。
- 3 都道府県ごとに小数点以下第二位を四捨五入した。
- 4 四捨五入により合計と一致しない場合がある。
- 5 被害の発生していないものを「—」、50m³未満の被害が発生しているものを「0.0」としている。

出典：「平成29年度森林病害虫被害量」について（平成30年11月7日林野庁プレスリリース資料）

(3) 秋田県の被害状況

秋田県では既に全市町村で被害が発生しており、県北の八峰町、能代市、三種町での被害量が多い。

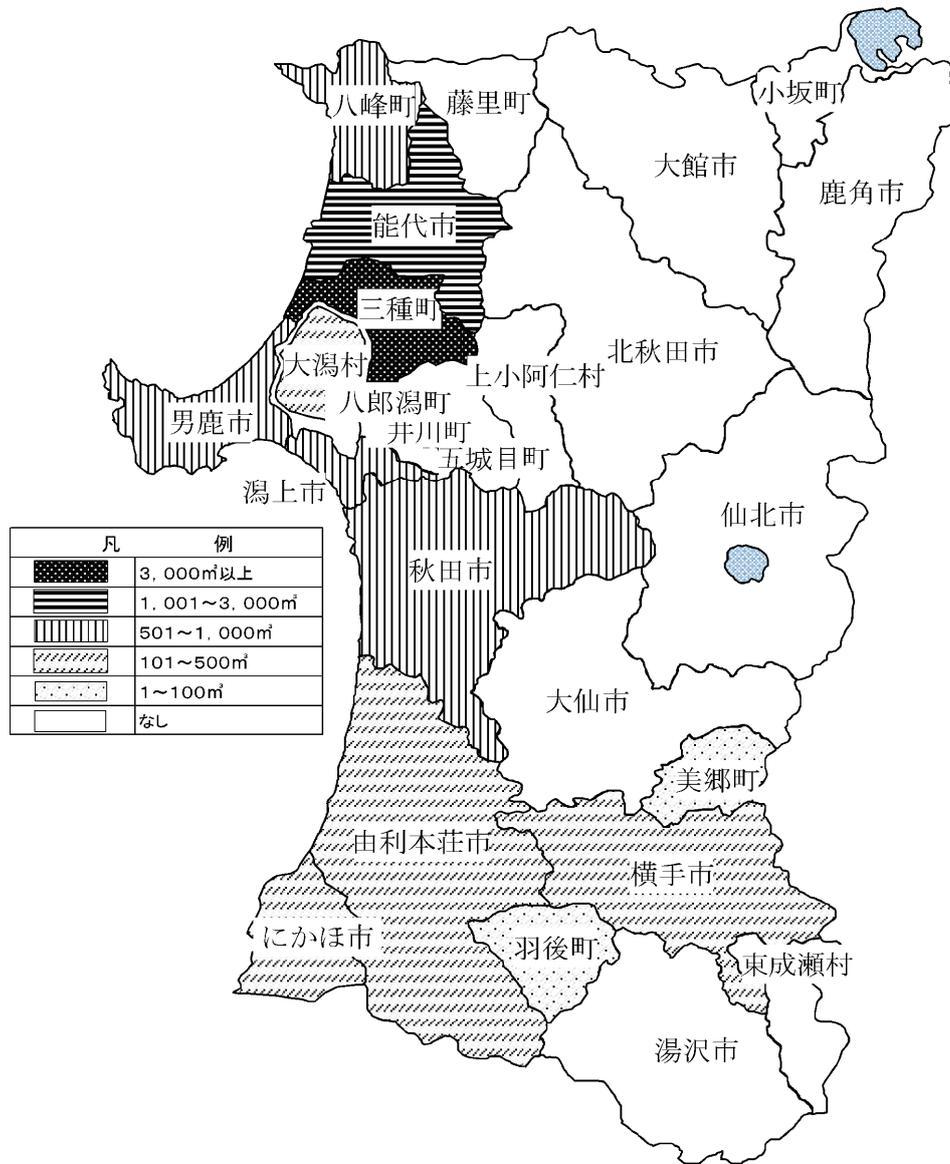


図8 秋田県の被害発生状況（平成29年度）

(4) 岩手県の被害状況

岩手県では被害地域が年々北上しており、平成 26 年度に盛岡市（旧玉山村）、八幡平市、岩手町で初めて被害が確認。

平成 27 年度は八幡平市、岩手町、宮古市でいずれも 1 本の被害が確認。

平成 28 年度は八幡平市で 1 本の被害が確認。

平成 29 年度は一戸町で初めての被害 3 本が確認。



図 9 岩手県の被害発生状況（平成 29 年度）

(5) マツ材線虫病（松くい虫）被害の仕組み

①松くい虫被害

マツノザイセンチュウという1ミリメートルにも満たないセンチウが樹幹内に入って爆発的に増殖し、樹液の流れを止めてしまうことによって急速にマツを枯らす伝染病。

②発生のメカニズム

- ◆初 夏:マツノザイセンチュウを体内に有した体長2~3 cmのマツノマダラカミキリ(以下、「カミキリ」という。)が健全なマツの小枝の皮を食べる時に、カミキリの体内からはい出したマツノザイセンチュウがマツの樹体内に侵入。
- ◆夏から秋:マツの樹体内でマツノザイセンチュウが増殖してマツが衰弱。衰弱したマツにカミキリが産卵。
- ◆春から夏:樹体内で育ったカミキリにマツノザイセンチュウが乗り移り、枯れ木から脱出するカミキリ成虫によって持ち出されて被害が拡大。

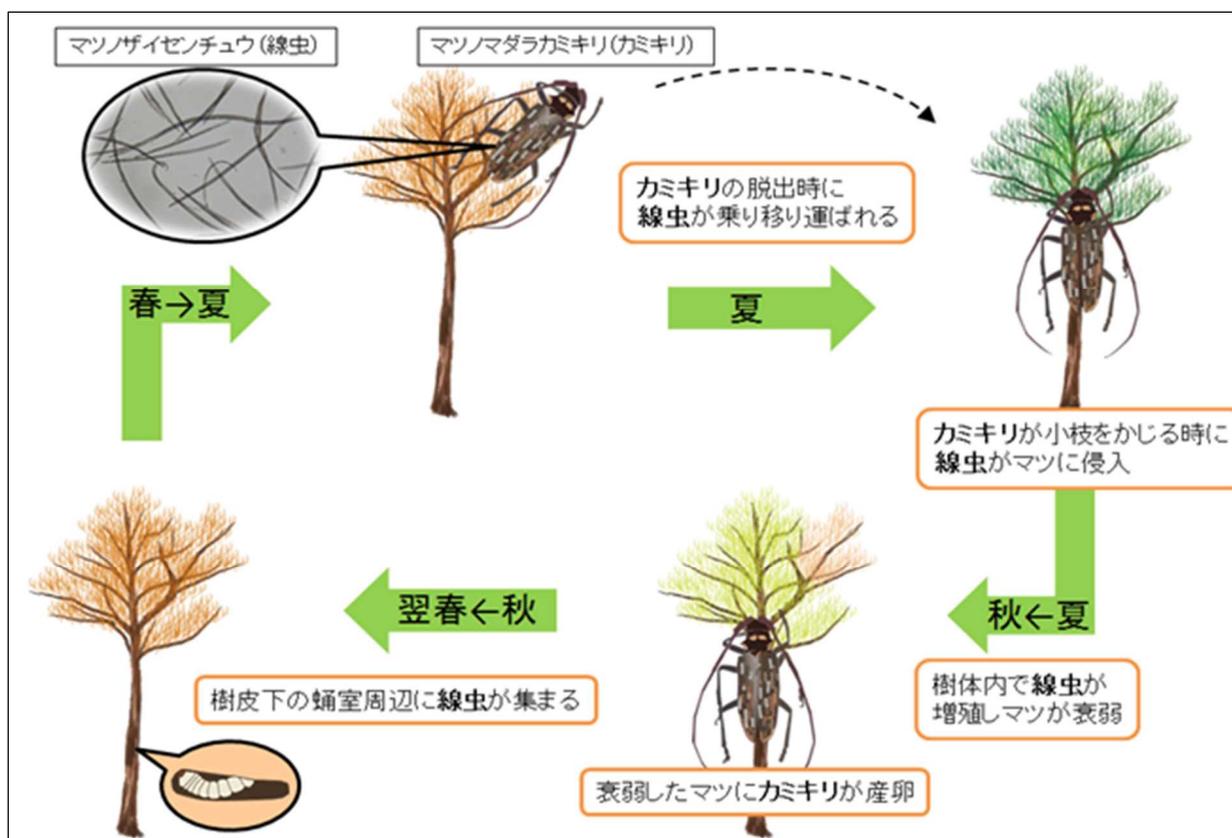


図10 マツ材線虫病（松くい虫）被害の仕組み